

(様式3)

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員全員が一言ずつ言葉を出して理念を組み立てた為、わかりやすく覚えやすく、受け入れやすい理念となっている。	利用者、職員等ホームに変化が見られた時は、常に見直していきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	各ユニット及び、玄関口に理念を掲げている為、意識の中に取り入れやすく、実践に役立っている。	理念を意識しているか、実行しようと努力しているか、確認する機会を設けると認識が深まってくと思われる。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域の方、家人様に集まっていたき、地域運営推進会議を開催し、その中で当ホームの理念を説明し、御理解いただける様に取り組んでいる。	理念変更後、まだ日が浅いが覚えやすいので浸透しつつある。(笑顔・挨拶・実行)
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ホームの行事である、夏祭りやふれあい喫茶を行なう事により多くの方にすみれホームを知って頂き、入りやすい雰囲気になったと思われる。	入り口の花壇の手入れ時に、気軽に声をかけて下さる人が増えてきた。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域運営推進会議には、自治会の方の参加もあり、自治会の夏祭りにも当ホームの職員もお手伝いしたりと、交流を深めている。	特定の利用者の方だけが、地域活動に参加するのではなく、全利用者が地域の一員となり、交流を深められる様に心掛けたい。地域の消防訓練に参加したり、ホームでの消防訓練等に参加していた様な企画を上げていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>地域より要望があれば、その都度対応していきたい。講習会や座談会的な集まりも増やしていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>前回、改善内容にあった施設での施錠について、2Fの開錠について話し合いを持つ。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>地域包括支援センターとも密に連絡を取り合い、サービスの質の向上につながる情報を得たい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>成年後見制度や地域福祉権利擁護事業について理解している職員が少ない為、早急に研修を行う。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>先日、他施設での勉強会に職員が参加し、理解した内容を当ホームの職員に伝え、老人虐待について学ぶ機会をつくり、話し合いを持った。</p> <p>定期的に研修を入れる予定にしている(次回8月)</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には時間をかけひとつひとつ丁寧に説明し、納得いただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が職員に話ができる雰囲気づくりができて、多少の不満の聞き出しはできているが、外部者へ不満を伝えるのはできない状況である。</p>	<p>地域運営推進会議にて、利用者の意見（苦情）等を伝え、ご意見をいただける機会をつくる。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>一筆箋を毎月送付したり、職員移動時は「すみれだより」の発行の中で報告している。金銭管理については、2・3千円のおこづかいをお預かりしている。</p>	<p>月に1回以上（面会時）に出納帳を見て頂き、サインを頂いている。又、お預かり金が少ないようであれば、その時に預っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満・苦情・ご意見は、早急に職員に伝え話し合い業務に反映できることは実行し、全利用者が同じサービスを受けられる様に努めているが、100%とは言えない。</p>	<p>いただいたご意見等は今後職員で話し合い、改善出来た事・難しい事等は地域運営推進会議の場で発表していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者と個人面談を行ない、意見などを聞く機会を設けている。</p>	<p>個人面談の機会をもう少し増やし、職員が何でも話せる場を設けていけるよう取り組みたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員数が少なく、連勤が続く大変な時期もあったが、現在では徐々に職員数も増え、調整しやすい状態にあり、対応できている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者・家族との馴染みの関係や信頼関係が確立しつつあるので、職員の異動はできるだけ行っていない。		離職が多少あるとユニット間での異動はさけられない。長期従事者を増やす努力も必要で、努めやすい職場作りも必要である。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間スケジュールがたてられ、数多くの職員が参加できる様になっている。		職員の意見・受けたい研修内容なども取り入れ、外部からの講師も招いた研修を行う。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のホームでの交流だけでなく、運営者の異なるグループホームの職員と交流する機会があり、当ホームから職員が参加した。又、老人虐待について勉強会にも参加させていただき徐々に交流を深めている状態である。		グループホームのリーダー会議（年1回）・他ホーム等のリーダー会議（年数回）・管理者会議やケアマネージャー会議等を定期的に行っている。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員全体や各ユニットでの食事会や2年に一度の社員旅行や新年会などの行事はある。		もう少し回数を増やしたり、ストレス軽減の為に何が良いのか、職員の意見も取り入れて欲しい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職場内研修を定期的実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込みを希望されている方には、管理者・ケアマネジャーが面接を行い、ご本人から直接希望を伺い入居時、ご要望として受けとめている。</p>	<p>管理者・ケアマネジャーの他に現場職員も同席し、利用者の話を伺う時間をつくっていききたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>上記、面接時家族とも会話の時間を設け、聞きとりを行い、受けとめる努力をしている。</p>	<p>上記と同様。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に、グループホーム以外のサービス利用についての情報も伝えている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前、家族との話し合い等は十分に行っている。入居希望者も見学して頂き、すでに入居されている利用者らと会話して交流を持って頂いた上で、入居を決めてもらっている。</p>	<p>ご自宅への訪問や当施設への見学は何度来て頂いてもいいと伝えている。又、ご家族の方と相談業務に入っている時には、利用者の方とお茶を飲んだり出来るように配慮している。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者とコミュニケーションを取るよう努力し、日常的な家事やレクリエーション等一緒に行動し、行事においても共に同じ時間を共有しながら生活を支え合っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者に何かあれば電話や、面会時にお伝えし、家族の要望も伺うようにしている。又、毎月1回近況を一筆箋(手紙)で伝えている。		ケアプラン説明時に家族様ができる支援はお願いし、共に利用者を支える関係を築いている。
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	さまざまな事情等を理解して、より良い関係が保てるように、言葉にも注意を払っている。又、利用者の家族に対する(愛する気持ち)等は、代弁している。家族の訪問時には水入らずで過ごせる配慮をしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者によっては、家族との外出の機会などに馴染みの人や場所にお連れしている事もあると思うが、定かではない。ホームでの生活上は、支援できていない。		特に外出支援に関して回数が少ない為、今後の課題とする。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性等を考え、関わり合えるような席決めをしたり、外出の機会をもつなど配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院により、契約終了となった方へは引き続きお見舞いに行かせて頂いたりしている。又、契約終了後にも家族様からお手紙をいただいたり、お電話をいただいたりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>仏壇のお供えや、家事への関わり方(やらせて欲しい)は、意向に沿うようにしている。外出に関しては、対応困難な時もある。</p>	<p>業務に追われ、希望にそっていない場合もある為、もっとやりたい事をお聞きし満足できる様実行する努力をしていきたい。又、思いを伝えられない利用者に関しては、できるだけ本人だったらという気持ちを考えるようにしている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>担当ユニットの職員は、情報を共有し把握に努めている。入居時、利用者自宅で使用していた家具、馴染みの品をお持ちいただき、今までの生活環境に近づける努力をしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>年齢や心身状態を把握して、無理のないよう一日を送っていただいている。変化には乏しいかと思う。</p>	<p>個々に対してのケアする場面をもっと増やしていきたい。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>課題とケアについては、チームで話し合い、家族の了承が必要なことは説明して了承を得た上で計画している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じた見直しを行い、又プランの変更も随時行っている。プランの実行期間中であっても、その方に必要なケアが加わる毎に、家族・職員と話し合いの中、見直しプランを立てている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はできている。又、カルテや申し送りノートを利用し、情報の共有もできている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整えている為、安心していただいている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的な消防訓練や指導を受けたり、地域の教育関係(学校)の行事参加、トライやるウィークの受け入れなど協力・交流している。		この地域のボランティアを行事の時、又は日常に受け入れ・交流できれば、より地域密着のホームになると思う。
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームから特養等へ転居する場合、話し合いを十分に持ち、家族・他事業所の方との連携も十分出来ている。他のユニットでは、他施設のデイケアサービスを利用されている。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議を通じて、情報交換を行ったり指導などしていただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携をとっている主治医、もしくは入居前のかかりつけ医に引き継いで受診できるよう、家族やそのかかりつけ医と連携をはかっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診が必要と思われる利用者は、受診を行なっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと契約している為、月2回の定期訪問と、必要に応じ電話にて相談をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携の病院に入院することが多い為、定期的に連絡を入れることで早期退院を実現している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化しそうな利用者に限って、家族との話し合いはされている。		今後、看取り介護についての勉強会等を実施していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族から終末期の意向を伺い、事業所のできる支援を検討し、その結果により訪問看護ステーションとの連携にて取り組んでいく。		ホームでできる事、医療が必要な事等、できる事できない事について話し合いを持つ必要性がある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>関連して、先日全職員が虐待の勉強会を行い、「言葉かけ」も十分注意していくことを学び、各々が意識していると思う。記録等も外に漏れないようにしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>働きかけるところまでは出来ていない。本人に意思は尊重するよう支援してはいるが「自己決定」「納得」した暮らしは十分にはできていない。</p>	<p>簡単な自己決定の場面を増やす努力をしていく。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>希望を言ってこられたらできる限りは沿うようにしているが、改まって「何う」事はしていない。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行事の時やユニット全体での外出の時は、おしゃれに気を配っている。日々のおしゃれにおいては、身だしなみを整える程度にとどまっている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1ヶ月ごとに献立は決まっているが、時に、お好み焼きやカレーライス等特別メニューを設け喜んで頂いている。食事作りに関し一部、準備や片付けを一緒にしている。		できれば、全利用者が何かの形で食事の準備や片付けに関わって頂き、「お客様」でないように取り組みたい。
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒・喫煙についてはホーム内では認めていない。おやつは15時にお出ししている。個別におやつを購入する際は、栄養指導のもと問題ない範囲で購入している。		特別な日(行事)やお誕生日などは、その方が望まれば少量の飲酒は認めてはと思う。が、飲酒を望む方はいない。
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、ある程度は排泄パターンを掴んでいる。尿意のない方については、声掛けにてトイレ誘導を行い支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間帯は決まっているが、その日の体調や希望にあわせ、臨機応変に対応している。		今後、利用者の意見を聞いてご希望があれば、午前以外の入浴時間を検討する必要がある。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室電灯や温度・寝具等に気を配り、一人ひとりの日々の状況に応じて、安心して眠りにつけるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力にあわせ、何らかの形で役割を持って頂いている。出来る限り楽しみごと・気晴らしの機会をつくり、喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		一人ひとりの生活歴や楽しみごとを考慮した支援を、担当職員を決めるなどして具体的に計画してやってみたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、財布を渡しご自身で支払って頂くよう努めているが、現状は困難で出来る方は少ない。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出たいと意思表示される方は、少数ではあるが一日数分でも外気に触れて頂くよう心掛けています。外出希望の方については、希望に沿えない時もあるが、機会をつくり対応している。		利用者の運動不足は慢性的なものになっており、歩ける方は、歩行して頂いて戸外に出る支援は強化したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年2回(春・冬)にユニット毎に遠足を実施し、家族の方へも声掛けし参加されている。		日帰り旅行等の企画の提案をしたが、家族の方からはあまり望んでいないという事で実施は見送られた。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月に年賀状を書いて頂いたり、電話や手紙も要望があれば対応し、やり取りされている。		認知症が進行し、自らの氏名も書けない利用者が増えてきている。そういった機会を多くとることで忘れない様にしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人の訪問時、居室で過ごされたり、食事を一緒にされたりドライブに出かけられたりとニーズに合わせ過ごして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	数名の職員が高齢者虐待と身体拘束についての研修に参加し、後日ホーム内で勉強会を開き、全職員に徹底し取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	研修を行ったことにより、施錠は拘束に繋がる行為であると職員全員が認識・理解している。普段、玄関や各居室は施錠しておらず、利用者が自由に行き来している。但し、2階は入口扉を施錠している。		2階の場合、帰宅願望のある利用者がいる事や多岐にわたってケアが必要な利用者が多くて職員の目が行き届かない。又、階段利用が困難な方が数名おられる等の理由により施錠している。今後、解錠できる方向での検討が必要と思われる。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室（居室は内側より施錠可能）・トイレ・浴室は、壁・カーテン・扉等で仕切られており、プライバシーが保たれている。居室下方に設けられた小窓より、中の利用者の様子を確認でき、夜間も定時に巡回することで利用者の状態をチェックしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室内で誤食・誤飲・怪我をする可能性のあるものは家族に持ち帰って頂くか、職員が管理している。共用空間にあるものは手の届かない高所に保管したり、目につかない扉の中に収納するなど工夫している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の中から、ひやりはっと委員を選出。ひやりはっと委員会を立ちあげて事故防止に努めている。日頃より職員は利用者の心身の状態を把握し、事故発生時には迅速に対処している。		他ユニット職員も勤務に入る為、定期的なリスクマネジメント研修の必要性がある。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	外部より人を招き、AEDを用いて救命訓練を実施した。		事故発生時における訓練を定期的に行う必要がある。現在、AEDを設置していない。AEDの設置が望ましい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に火災訓練を行っている。2階は車椅子の利用者が多く、万一火災が発生した時、無事避難できるかどうか疑問である。地域住民への協力を得られるような働きかけは現在していない。		災害時における2階利用者の避難経路の確保。今年6月には神戸市民防災センターで、防災体験学習を行う。又、来年1月には専門家を招いて火災予防の基礎知識を学ぶ予定である。又、運営推進会議において自治会と共に訓練ができるよう、企画をあげる予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族に対してそれぞれの利用者に起こりうる事柄(転倒・持病の悪化等)を必要時、その都度説明し納得頂いている。家族の了承を得た上で、身体拘束を行う場合があるが、その時も切迫性・非代替性・一時性の三条件を念頭においている。		安全面を優先させながら、可能な限り拘束箇所を減らした。
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員が常時利用者の体調を把握している。朝夕の申し送りで情報を伝達。又、各ユニットに設置している「申し送りノート」との併用により職員間での周知をはかっている。場合によっては、訪問看護ステーションや直接医療機関へ連絡し迅速に対応している。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった祭、必ず個人カルテと受診ノートにその旨記入している。薬の説明書はカルテに入れ、全ての職員がいつでも見られるようにしている。決まった時間に職員が服用させており、症状変化があれば速やかに医療機関へ連絡・改善をはかっている。		必要利用者は、月2回薬剤指導を受けている。
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝のラジオ体操を毎日行っている。水分も多く取るよう心掛けている。主治医の指示により便秘気味の方には、各利用者に合った下剤を用いて排便をコントロールしている。訪問看護の際、看護師に相談する事もある。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。自力で磨けない利用者の場合、職員が口頭で指示し磨き残しがあれば介助している。		月1~4回訪問歯科がある。その際、口腔ケアに関するアドバイスをもらっている。(必要な利用者には受けていただいている)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事摂取一覧表と一部の利用者の水分摂取一覧表を設け、一日の摂取量がひと目でわかるようにしている。自分で食べる事ができない利用者については食事介助している。		必要な利用者に関しては、(管理栄養士による)月2回栄養指導を受けている。その際、栄養についてのアドバイスをもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成し、全職員が周知徹底している。		感染症対策予防キットを各ユニット毎に設置し、すぐ対処できるようシュミレーションを行った。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前、手洗い・アルコール消毒を行ない衛生面に細心の注意を払っている。調理用具は毎日ハイターで消毒し、調理場は常に清潔を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには緑や四季の花を絶やさず、明るくアットホームな雰囲気づくりに努めている。死角もなく、夜間の照明も確保されている。玄関は日中、施錠していないが、不審者の侵入はない。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者にとって適切な環境であるよう、常に配慮している。又、季節の花を飾ったり、年中行事にちなむディスプレイを行うことで四季のうつりかわりを楽しんで頂いている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階に関しては、互いの会話が成立する利用者はごく一部に限られている。昼間はユニットの椅子に各自座って過ごされている事が多い。		限られたスペースの中で、家具を上手に活用したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用されていた家具や衣類・食器等を持ち込んでいただき、今迄と変わりのない生活を営めるよう努めている。利用者の馴染みのある物を配置しているので、それぞれその人らしい居室空間となっている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はこまめに行い、ユニット内は外気温との差がないよう配慮している。居室内では、各利用者ごとに温度調節し対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁・トイレ・居室内に手すりを取りつけており、ユニット内は段差なく安全に自立した生活が送れる。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの能力を見出し、最大限発揮できるよう取り組んでいる。場所を確認できるように目印等(トイレ)を貼っている。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周辺に季節の花を置き彩られている。利用者は日々、敷地内にて散歩や洗濯干しなど活用されている。		気候のよい時季には、花を見ながら喫食したり、外気浴を行い楽しんで頂いている。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念をもとに、笑顔で接し・気さくにあいさつを交わし、思いついたらすぐに実行にうつす事をモットーにし、明るい職場作り・笑顔あふれるホーム作りをしようと職員全員が心掛け、努力している。又、月に一度、各ユニットにて会議を行ない、その中で意識確認を行っている。